

事業概況

化成品



化成品セグメントは、皆様の暮らしに欠かせない様々な製品の原料となる基礎化学製品を取り扱っています。1918年の創業以来の事業であるソーダ灰、「煙突のあるところには必ず使用される」と言われる苛性ソーダ、塩素誘導品などの製品は非常に幅広い用途を持ち、各産業において必要不可欠なものとなっています。また苛性ソーダの製造工程で発生する塩素と水素は多結晶シリコンの製造工程で使用されており、当社の収益を支える基盤事業としての役割も担っています。なお2013年に開業した液化水素製造の合弁会社、山口リキッドハイドロジェン(株)を通して、当社の水素が種子島宇宙センターのロケットの燃料としても使用されるなど、最先端の宇宙開発にも貢献しています。当セグメントでは、「顧客に選ばれ続けるトクヤマを実現する」という目標のもと、顧客・企業個々の要請を受け止めて、ニーズに見合った安定かつタイムリーな製品・サービスの提供に努めています。

| 事業 | 主要製品 |
|----------------|--|
| ソーダ・塩カル | ソーダ灰、塩化カルシウム、珪酸ソーダ |
| クロルアルカリ・塩ビ | 苛性ソーダ、塩化ビニルモノマー（VCM）、酸化プロピレン、塩素系溶剤 |
| ニューオーガニックケミカルズ | 工業用イソプロピルアルコール（IPA） |
| グループ会社 | ソーダ灰・塩化カルシウム（株）トクヤマソーダ販売 塩化ビニル樹脂（PVC）（新第一塩ビ(株)） |

当期の業績（2019年3月期）

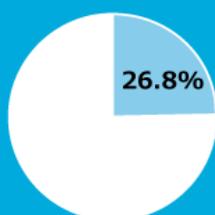
苛性ソーダは、国内の販売価格の是正が進んだことにより、業績が大きく伸長しました。

塩化ビニル樹脂は、販売数量は堅調に推移しましたが、国産ナフサ等の原料価格の上昇により製造コストが増加し、減益となりました。

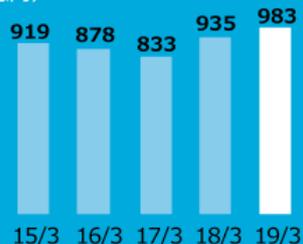
塩化カルシウムは、暖冬の影響で販売数量が減少し、減益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は983億80百万円（前期比5.2%増）、営業利益は168億50百万円（前期比4.2%増）で増収増益となりました。

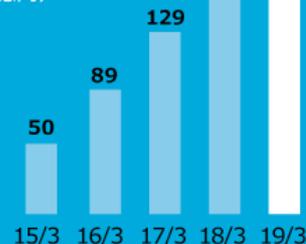
売上高構成比
(2019年3月期)



売上高推移
(億円)



営業利益推移
(億円)



今後の戦略

顧客ニーズに沿った、高品質でコスト競争力に優れた基礎化学素材及びサービスを提供することにより、顧客の事業発展や健康で安全な社会づくりに貢献するとともに、当社の中核事業として安定的・継続的な収益向上に貢献します。そのための重点施策は以下のとおりです。

■ソーダ・塩カル事業

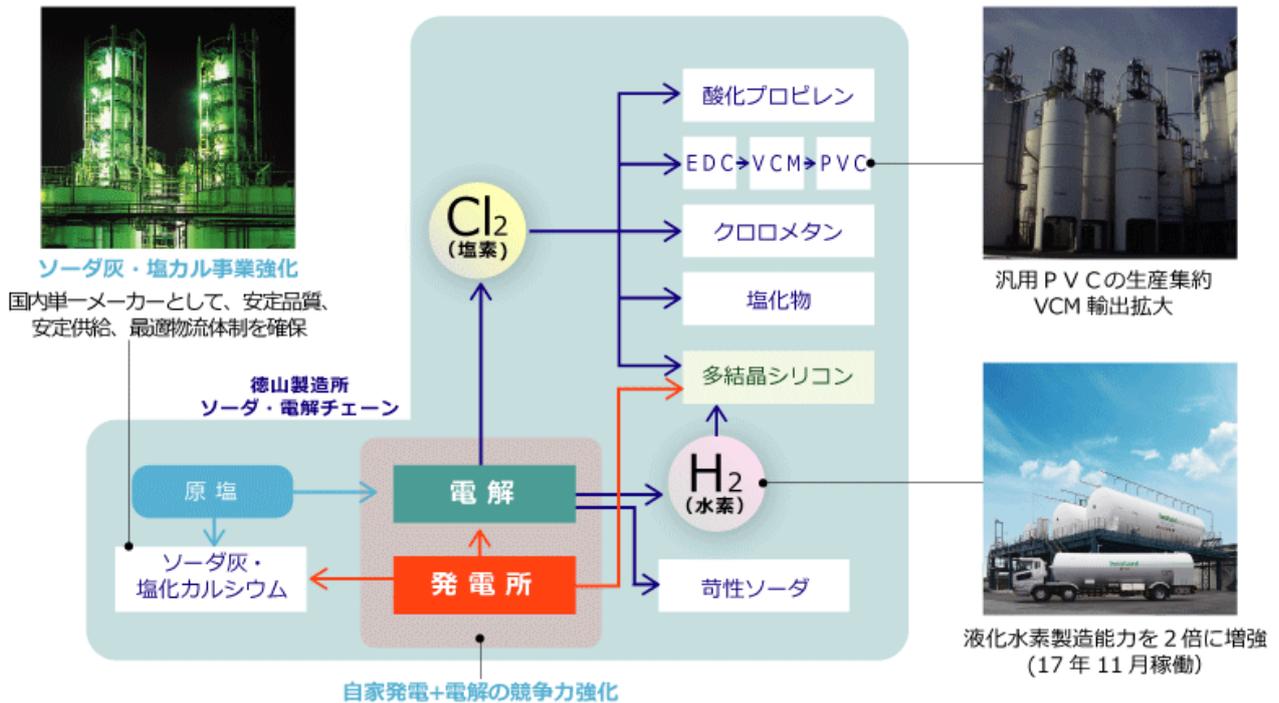
国内単一メーカーとして、製品の安定供給・品質維持に取り組めます。

■クロルアルカリ・塩ビ事業

徹底したコストダウン、高い技術力、製造プロセス力のさらなる向上により、製造コスト競争力トップを目指します。

苛性ソーダ・塩化ビニルモノマーの輸出体制強化とプラントのフル稼働維持に努めます。

事業再構築・競争力強化の取り組み



特殊品



特殊品セグメントの製品分野はエネルギー、エレクトロニクス、環境など多方面にわたっています。例えば半導体や太陽電池に使われる高純度多結晶シリコンは、世界有数のシェアを持っています。またその副産物から製造する乾式シリカはシリコーンゴム、半導体用研磨材、複写機トナーなどに使われています。

放熱性という特長を持つ窒化アルミニウムは、半導体の製造装置をはじめ、インバーター、LEDなどの省エネルギー分野でも利用され、電子工業用高純度薬品は半導体、液晶パネルの製造などに役立っています。

特殊品セグメントは今後も高純度化、粉体制御などの特有技術を基盤として世の中の役に立つユニークな製品を創り出していきます。

| 事業 | 主要製品 |
|--------|---|
| 電子材料 | 高純度多結晶シリコン |
| 乾式シリカ | 乾式シリカ、四塩化珪素 |
| 放熱材 | 窒化アルミニウム |
| ICケミカル | 電子工業用高純度薬品、フォトレジスト用現像液 |
| 洗浄システム | 金属洗浄用溶剤 |
| グループ会社 | 乾式シリカ（徳山化工(浙江)有限公司） 窒化アルミニウム白板（TDパワーマテリアル株） 電子工業用高純度薬品（台湾徳亞瑪股份有限公司） |

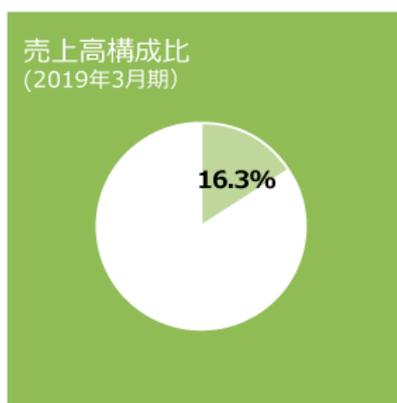
当期の業績（2019年3月期）

半導体向けの多結晶シリコンは、販売数量は堅調に推移したものの、原燃料価格の上昇等により製造コストが増加し、減益となりました。

電子工業用高純度薬品は、半導体製品用途で販売数量は堅調に推移したものの、国産ナフサ等の原料価格の上昇により製造コストが増加し、減益となりました。

放熱材は、半導体製造装置部材向けを中心に販売数量が増加し、好調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は596億68百万円（前期比1.7%増）、営業利益は99億34百万円（前期比9.7%減）で増収減益となりました。



今後の戦略

情報通信・電子分野や環境・エネルギー分野など生活を豊かにする産業を、高機能素材で支えるとともに、次世代開発品の提案により事業と収益の拡大を図ります。そのための重点施策は以下のとおりです。

■電子材料（高純度多結晶シリコン）事業

最先端品をはじめとする顧客要求品質を的確に把握し、品質世界一とコスト極小化を実現します。

■乾式シリカ事業

CMP・シリコン向けに続く高機能品を拡充します。

徳山化工(浙江)有限公司におけるコストダウンと高付加価値化に取り組みます。

■I Cケミカル事業

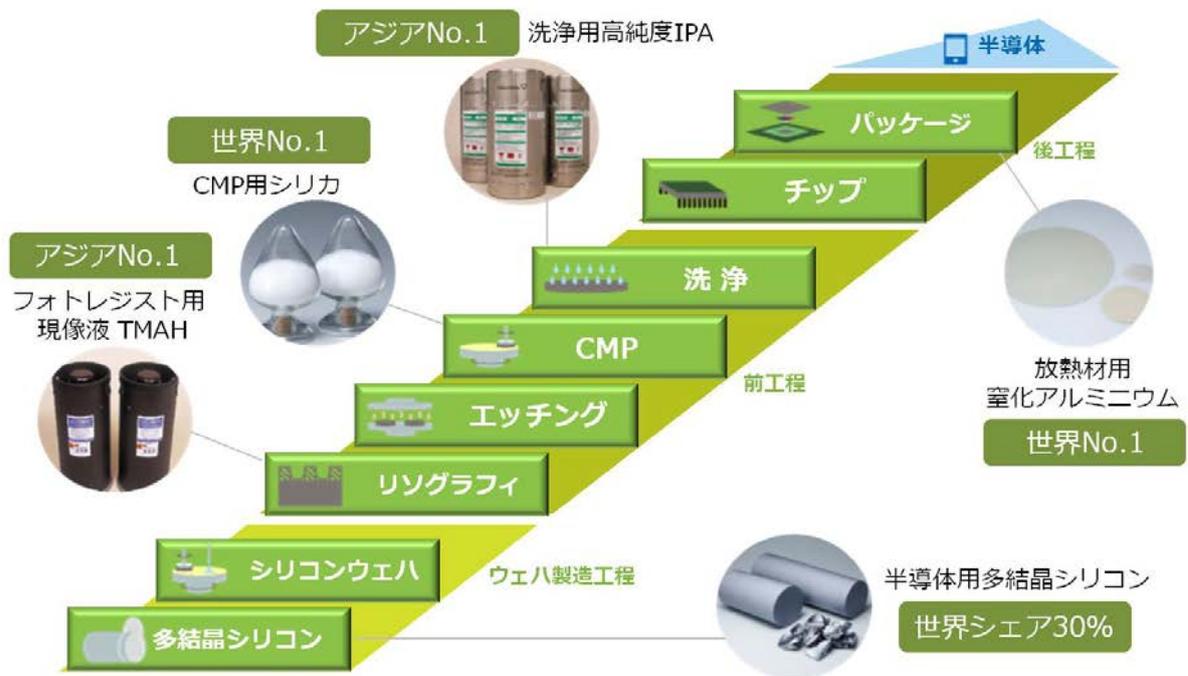
先端半導体向け製品の拡販、品質向上を図るとともに、日本・台湾・中国での生産能力増強を進め、アジア地域における需要に対応した供給体制を確立します。

■放熱材事業

2020年4月に窒化アルミ粉末の生産能力を600トン/年から840トン/年に拡大させ、安定供給体制を確立します。

窒化ホウ素及び窒化アルミニウムフィラーなどの製品ラインナップの拡充を進めます。

ICTの進化を支えるトクヤマの半導体関連製品



セメント



トクヤマのセメント事業は、1938年に徳山製造所内の副産物の有効活用という、時代に先駆けた観点でスタートしました。南陽工場で製造するセメントやセメント系固化材など関連製品は、生コンクリートやコンクリート二次製品に形を変え、住宅・ビル・ライフラインを支える構造物、港・橋・道路など社会資本になって人々の暮らしを支えています。

現在は社内だけでなく、社外からも廃プラスチックや家庭ゴミを燃やした後の灰など多くの廃棄物を受け入れ、セメントを製造する工程で原料や熱エネルギーとして利用しています。社会に開かれたリサイクルを実現し、限りある資源を有効に活用する資源循環型社会の形成に貢献しています。

また、(株)トクヤマエムテックでセメント系やモルタル系の各種建材製品を製造販売するほか、当社独自の、漆喰をシート化する技術により、建築内装材「漆喰ルマージュ」や、古典的なフレスコ画の技術に、漆喰による立体造形技術を組み合わせた

最新フレスコ技法「Fresco Graph」などを展開し、セメント・建材分野で培った技術で新たな可能性を見出しています。

| 事業 | 主要製品・サービス |
|--------|--|
| セメント | セメント、生コンクリート、セメント系固化材 |
| 資源環境 | 資源リサイクル |
| グループ会社 | セメント、生コンクリート（広島トクヤマ生コン(株)、トクヤマ通商(株)、他） |

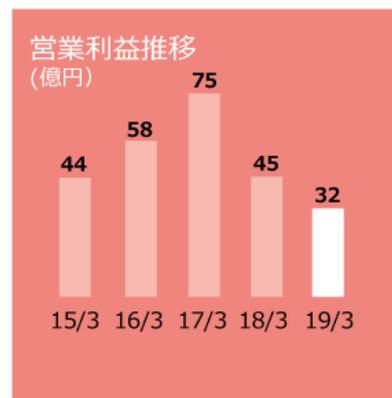
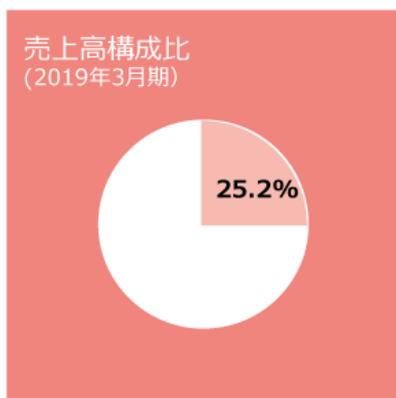
当期の業績（2019年3月期）

セメントは、国内の出荷が軟調に推移したこと、石炭等の原料価格の上昇により製造コストが増加した結果、減益となりました。

資源リサイクルは、ほぼ前期並みの業績となりました。

連結子会社は、セメント関連製品の出荷が堅調に推移し、増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は923億66百万円（前期比5.7%増）、営業利益は32億4百万円（前期比29.9%減）で増収減益となりました。



今後の戦略

セメントをはじめとする建設基礎資材を高品質で安定的に提供することにより、強靱で豊かな国土づくりに貢献するとともに、化学技術を活かし難廃棄物を処理・再資源化することにより、環境負荷を低減し持続可能な社会の実現に取り組みます。そのための重点施策は以下のとおりです。

■セメント事業

生産効率及び原単位改善と廃棄物の受入増加を軸とした原価低減とエネルギー高効率化を進めます。インフラの補修・補強を中心とした建材事業を、部門の次なる収益の柱として確立します。

■資源環境事業

社内で発生する廃棄物を安定的に処理し、当社グループの競争力の要を担うとともに、独自の技術で新たな環境事業を展開していきます。

セメントクリンカー輸出拡大



クリンカーシップローダー（徳山製造所）



トクヤマニューカレドニア

ライフアメニティー



ライフアメニティーセグメントは、ポリオレフィンフィルム、医療診断システム、歯科器材、イオン交換膜、樹脂サッシ等を手掛けるグループ会社及びトクヤマの医薬品原薬・中間体（MA）事業、プラスチックレンズ関連材料（TS）事業と微多孔質フィルム（NF）事業を統括するセグメントです。

MA事業とTS事業は、当社の強みである有機合成技術から生まれたジェネリック医薬品原薬・中間体やメガネ関連材料を中心に事業展開をしています。NF事業では、水は通さず空気や湿気は通すというフィルムを製造販売しています。

海外グループ会社としては、中国で紙おむつ用の通気性フィルムの製造販売を担っている上海徳山塑料有限公司などがあります。

| 事業 | 主要製品 |
|-------------------|--|
| 医薬品原薬・中間体（MA） | 医薬品原薬・中間体 |
| プラスチックレンズ関連材料（TS） | フォトクロミック材料 |
| 微多孔質フィルム（NF） | ポーラム、NFシート |
| グループ会社 | ポリオレフィンフィルム（サン・トックス㈱） 医療診断システム（㈱エイアンドティー） 歯科器材（㈱トクヤマデンタル） イオン交換膜（㈱アストム） 樹脂サッシ（㈱エクセルシャノン） |

当期の業績（2019年3月期）

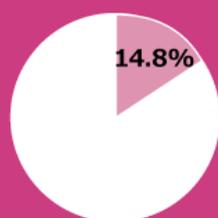
プラスチックレンズ関連材料は、メガネレンズ用フォトクロミック材料の出荷が好調でした。

一方で、イオン交換膜は、出荷は堅調に推移したものの、大型案件のあった前年同期比では減益となりました。

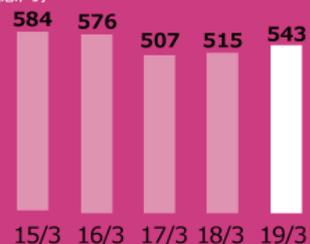
医薬品原薬・中間体と歯科器材は、それぞれ販売数量が増加し、業績は堅調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は543億80百万円（前期比5.4%増）、営業利益は32億38百万円（前期比13.1%減）で増収減益となりました。

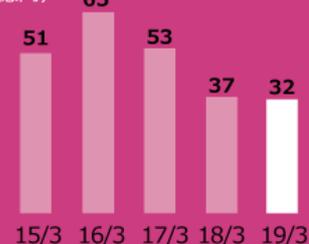
売上高構成比
(2019年3月期)



売上高推移
(億円)



営業利益推移
(億円)



今後の戦略

顧客起点の開発・製造・販売体制の確立・強化により、国内外の市場で優位なポジションを獲得し、事業の拡大を図り、人々の生活・健康（QOL）の改善に貢献します。そのための重点施策は以下のとおりです。

■MA事業

開発パイプラインの拡充及び既存製品の収益性強化とともに、医薬品周辺事業（化粧品、サプリメント、動物）の展開を加速します。

■TS事業

メガネレンズ用フォトリソミック材料のシェア拡大と用途開拓を図ります。

■歯科器材事業：(株)トクヤマデンタル

審美充填材料（コンポジットレジン）を中心とした既存分野の製品の世界展開により事業を拡大します。また、次世代事業の開発体制・マーケティングを強化します。

■診断システム事業：(株)エイアンドティー

グローバル展開を強化し、販売先の拡大に努めます。

ヘルスケア関連製品

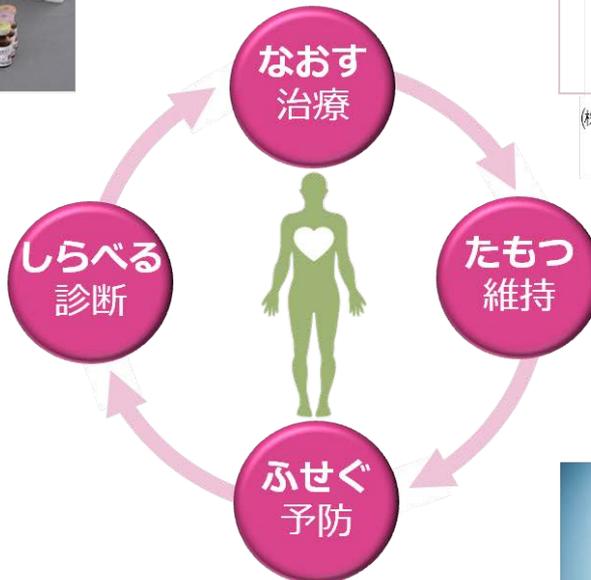


- ・ 歯科材料
- ・ 医薬品原薬・中間体



(株)トクヤマデンタル「オムニクロマ」
(歯科充填用コンポジットレジン)

- ・ 医療診断システム
- ・ 臨床検査試薬
- ・ 動物医療周辺材料



- ・ OPPフィルム
(食品包装材)
- ・ 微多孔質フィルム
(紙おむつ材料)



- ・ フォトリソミック材料
- ・ 乳牛の乳頭保護材
- ・ サプリメント

